



「IPPOプロジェクト」に3年連続採択！

熊本県内の独創的なアイデアや技術を発掘する「熊本版未踏的プロジェクトIPPO（イッポ）」の人材育成コースに、宇土高校1年生の勝野さん、中原さん、上田さんのチームが見事採択されました。

この事業は熊本日日新聞社が運営し、熊本県や熊本市などの行政、県内大学・高専の教育機関、地域の金融機関や民間企業が強固に連携する一大プロジェクトです。次世代の技術革新や新たな社会の仕組みを牽引していく、優れた情報技術の専門家やものづくりの担い手を育てることを目的としています。大学生や社会人も応募する中、本年度の高校生採択は県内で本校のみという快挙であり、これにより3年連続の採択となりました。



「つかプロ」開発に挑む3人

3人が挑むプロジェクトは「つかプロ（掴めるプログラミング）」です。「画面で学ぶ前に、手でワクワクを。」をコンセプトに、パソコンの画面上だけで完結させず、ブロックやロボットといった実物に触れて動かしながら、子どもたちが体感的に楽しくプログラミングの考え方を学べるユニークな教材の開発を目指します。今後は専門家の支援を受けながら教材開発に挑みます。

例年、テレビ番組でも密着取材される注目事業です。宇土から未来を創る3人の真摯な努力に熱いエールをお願いいたします。

高校生の力で復旧を後押し 宇土高校生が災害ボランティアに参加！

8月28日(金)、宇土高校サッカー部と陸上競技部の生徒、顧問の計30人が、宇土市災害ボランティアセンターを通じて被災した住宅の片付けを手伝いました。

生徒たちは、ボランティアセンターに登録するボランティアとチームを組み、支援を必要とする住宅へ。冷蔵庫の移動や、地震で壊れたタンスや棚などの災害ごみの搬出に汗を流しました。

厳しい暑さの中、生徒たちは声を掛け合いながら、一つひとつの作業を丁寧に取り組み、被災した住民の生活再建を後押ししました。

